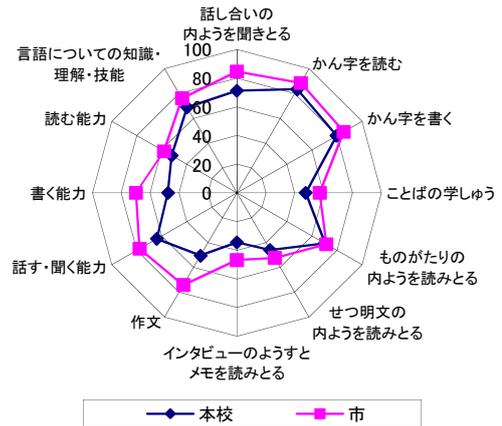


# 宇都宮市立岡本小学校 第3学年【国語】問題の内容別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
問題の内容別	話し合いの内ようを聞きとる	71.4	84.6
	かん字を読む	83.5	88.6
	かん字を書く	79.7	85.4
	ことばの学しゅう	47.6	57.3
	ものがたりの内ようを読みとる	70.4	71.5
	せつ明文の内ようを読みとる	45.9	52.5
	インタビューのようすとメモを読みとる	34.4	46.8
	作文	50.5	74.2
観点別	話す・聞く能力	64.0	77.8
	書く能力	47.7	69.9
	読む能力	52.2	58.2
	言語についての知識・理解・技能	69.1	76.0



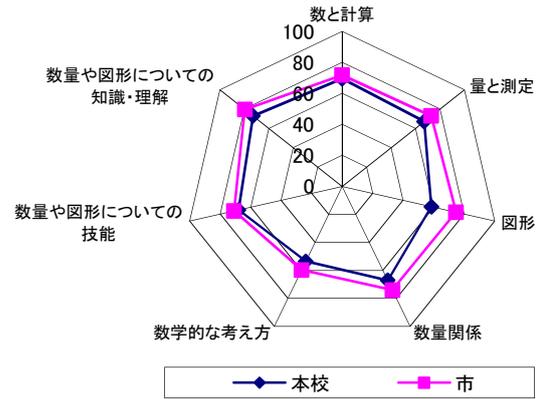
## ★指導の工夫と改善

問題の内容	本年度の状況	今後の指導の重点
話し合いの内ようを聞きとる	正答率が71.4パーセントで、市の平均より大きく下回っている。日常生活の中でも話を聞くことの指導を強く感じている現状からも、話の内容を聞き取る力が不足している。	教科の指導はもとより、学習活動全般にわたって、聞く態度の育成を図り、話の内容や中心を考えながら聞き取る力の向上を目指す。
かん字	読み書きとも80%の正答率であり、ほぼ定着しているとみられるが、2年生の漢字を書くところが正答率が低い。	朝の学習や漢字のドリルなど反復練習の機会を多く取り入れ、学習した漢字の定着を図る。
ことばの学しゅう	市の平均より大きく下回っているのが漢字の部首の理解であった。ローマ字のつづりや国語辞典の使い方なども市の平均より5%弱低く、定着が不十分である。	ローマ字や辞書については、ほかの単元や教科(総合の調べ学習・パソコン活用など)でも繰り返し練習させ、定着を図る。漢字の部首の理解については新出漢字のたびに反復して定着を図る。
ものがたりの内ようを読みとる	ほかの領域と比べると、市の平均とほぼ同じである。図書室の利用状況から見ても物語のへ興味関心は高い。	より一層の読書への働きかけをするとともに、読んだ後の感想文を書くなどして自分の考えを文章でまとめる力もつけさせたい。
せつ明文の内ようを読みとる	市の平均より7%低く、論理的思考の文章の読み取りが不足している。	説明的文章の学習活動の中で、主語と述語の関係や段落の中心となる文に注目して要点をまとめるなどの学習を継続的に指導していく。
インタビューのようすとメモを読みとる	聞き取り問題の理解と同じように正しく読み取り内容の要点を押さえてメモを取るものの正答率が低い。	日常の学習活動の中で相手との会話の仕方や言葉遣いなどを指導するとともに、話の内容の効果的メモの取り方について指導しながら、定着を図る。
作文	指定された長さで文章を書くことや、経験したことや自分の考えを書くことに課題がある。	文章を書くことの活動を様々な教育活動の中で取り入れながら、適切な長さの文やまとまりのある文の書き方の指導を繰り返し指導する。

# 宇都宮市立岡本小学校 第3学年【算数】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
領域別	数と計算	69.4	71.8
	量と測定	67.1	72.8
	図形	58.5	74.7
	数量関係	67.2	74.1
観点別	数学的な考え方	53.5	59.7
	数量や図形についての技能	67.9	70.9
	数量や図形についての知識・理解	72.9	79.6



## ★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	ほとんどの問題で正答率が80%を超えているが、繰り下がりのある引き算と数直線上の数字の読み取りや大きな数の大小に比較についての正答率が低い。	朝の学習や授業などを通して継続的に計算連流に取り組ませ、基本的計算能力の定着を図る。数直線の読み取りや大きな数についての理解が不十分な児童に対しては、位取りを意識させたり数直線を書く活動を多くしたりして習熟を図る。
量と測定	市の平均よりも下回っている。特にある時刻からある時刻までの時間を求める問題や長さの単位を選ぶ問題の正答率が他の問題と比べても低い。	誤答の多かった内容に関しては、まとめの学習においてワークシート等を使い重点的に復習し、学力の定着を図る。単位に関しても朝の学習などで繰り返し練習する。
図形	2年生の学習である直方体の等しい辺の数を求める問題とそれを形作る面の数と形を求める問題であったがどちらも市の平均を大きく下回っている。	前学年の内容で復習不足が出てしまった。3学年ではコンパスを使った円の学習が中心であったが、今後三角形を指導しながら四角形のことにも触れて、図形についての理解の定着を図っていく。
数量関係	棒グラフを読み取る問題は80%以上の正答率であったが、□を使った式の減法に関しては市の平均より10%下回っている。	グラフの読み方に関しては引き続き社会などほかの教科でも練習させ、技能の定着を図る。□を使った式に関しては、文章の理解力を高めることも併せて要求されるため、文章の読み取りを含めて繰り返し復習を積み重ねて指導する。